

## 第66回国民体育大会中国ブロック大会バスケットボール競技

日 時	2011年8月13日(土)		少年男子 リーグ戦
会場名	桃太郎アリーナ		( A )コート
鳥取県 61		$\left. \begin{array}{l} 13 \text{ --- } 14 \\ 14 \text{ --- } 18 \\ 21 \text{ --- } 19 \\ 13 \text{ --- } 25 \end{array} \right\}$	76 岡山県
審判名	主 審	大谷 英紀	副 審 米村 悠美

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
加藤 慧	4	20	3	5	1	3	米村 誠志郎	4	15	1	6		3
伊田 涼司	5	24	3	6	3	1	梶原 翔太	5	6		3		
岡本 貴彦	6	6		1	4		岸本 祐也	6	8		4		
長谷川 徹	7	2		1		2	岡田 陸人	7	21	1	8	2	2
戸田 涼太	8	2		1			難波 大樹	8	6		3		2
川原 圭太	9	4		2		2	岩野 侑太	9	2		1		2
石賀 康寛	10	0					竹下 翔	10	4		2		3
伊木 祐二	11	3	1			1	松本 勇人	11	10		5		
佐藤 孝太	12	0				1	宮本 航	12	4		2		1
村田 壮大	13	0					原田 海利	13	0				1
余根田 将陽	14	0					岩本 龍儒	14	0				1
妹尾 隆輝	15	0					林 将大	15	0				
合 計		61	21	32	8	10	合 計		76	6	68	2	15

## 戦 評

1Q お互いディフェンスはマンツーマンでスタート。岡山#7のジャンプシュート、鳥取#4のドライブで2-2となった後、岡山がディフェンスとルーズボールを頑張り鳥取に3分間得点を許さない。その間、岡山は#5を中心に着実に得点を重ね岡山10-2鳥取とする。鳥取は残り5:50となったところで#5の連続得点で反撃を開始し、一点差の岡山14-13鳥取となったところで1Q終了。

2Q 開始早々、鳥取は#5の3Pで、この試合初めてのリードを奪う。その後、岡山は、#4の連続得点などで岡山20-16鳥取と再逆転に成功。1Qとは、打って変わって両チームともシュートタッチが良く、シュートの入れ合いとなる。岡山が4点程度のリードを保ちながらゲームが進む。残り18.8秒で岡山がタイムアウトを取り確実に2点を取りに行くが、鳥取がキッチリと守り抜き岡山32-27鳥取で前半終了。

3Q 立ち上がりすぐに岡山#10の連続ファウルにより、鳥取はフリースローで岡山32-30鳥取と2点差まで詰め寄る。岡山#7、鳥取#5の3Pでお互い得点を重ねた後、岡山がディフェンスからの早い展開から6連続得点で鳥取を突き放しにかかり、鳥取は堪らずタイムアウト。これをきっかけに鳥取が連続7得点を奪い、簡単には引き下らない。しかし、岡山は#6の頑張りでリードを保ち岡山51-48鳥取で3Q終了。

4Q 出だし、岡山#4の連続得点で岡山56-48鳥取となる。鳥取は#4、#6、#9を中心とした攻撃で岡山58-56鳥取と2点差まで追上げる。岡山はここからディフェンスの激しさを増し、鳥取は簡単に得点することができず、残り5分以降5点に抑えられる。その間、岡山は#4、#7を中心に最後まで攻撃の手を緩めず岡山76-61鳥取となったところで試合終了。

# 第66回国民体育大会中国ブロック大会バスケットボール競技

日 時	2011年8月13日(土)		成年女子 リーグ戦
会場名	桃太郎アリーナ		( A )コート
広島県 60		$\left\{ \begin{array}{l} 18 \text{ --- } 7 \\ 12 \text{ --- } 13 \\ 15 \text{ --- } 23 \\ 15 \text{ --- } 18 \end{array} \right\}$	61 岡山県
審判名	主 審	甲斐 清	副 審 田中 真・大山 直樹

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
河野 南	4	0				1	藤原 ころろ	4	0				
藤井 麻子	5	3		1	1		田上 理賀	5	0				2
佐藤 真理	6	4		2		1	川原 美幸	6	0				
瀬戸 友里恵	7	15	2	3	3	3	丹下 真帆	7	0				
伊集院 舞	8	6		3		4	高木 亜利沙	8	5	1	1		1
岩原 里奈	9	0					豊浦 明香理	9	0				
田所 亜希	10	9		2	5	3	菅野 千尋	10	21		7	7	4
萱嶋 葉奈	11	5		2	1		榎谷 美涼	11	0				
堺 実香	12	0					濱田 梨愛	12	17	4	2	1	1
瀬戸 友佳理	13	15	2	4	1	4	毛利 江李	13	5	1	1		4
鍵本 郁子	14	0					谷川 明穂	14	11		3	5	1
高橋 真弥	15	3	1			1	三澤 里歩	15	2		1		1
合 計		60	15	34	11	17	合 計		61	18	30	13	14

## 戦 評

1Q、両者ともにマンツーマンでスタート。岡山#14のフリースローにより先制。その後も、岡山は#10のジャンプシュートや#13の3Pなどで広島2-6岡山とする。広島は#8や#7のドライブ、#11のジャンプシュートなどで広島10-6岡山とする。岡山のタイムアウト後も、広島は#13や#8がジャンプシュートを決めるなどして得点を重ねる。岡山はシュートがことごとくリングに嫌われ、広島18-7岡山で終了。

2Q、岡山は#15の速攻、#10のゴール下などを決めるが、広島も#13の3Pや#8のジャンプシュートなどで応酬する。岡山は#8の3Pやディフェンスを一時ゾーンにするなどで巻き返しを図ろうとするが得点が伸びず、広島#10のフリースローや#15の3Pなどで広島30-20岡山で終了。

3Q、岡山#10のドライブや#12が3Pを4本決めるなどの活躍で広島38-37岡山と1点差とし、広島すかさずタイムアウト。その後、広島は#10のジャンプシュートや#13の3Pと応戦、岡山も#8の速攻、#14がフリースローを2本沈めるなどして食い下がり広島45-43岡山で終了。

4Q、岡山#14が速攻からフリースローをもらい、1本沈め同点とする。その後、岡山は#10#12のバスカンや#14のドライブ、ゴール下で得点を重ねる。広島も#7が長い距離の3Pやドライブからのジャンプシュートなどで応戦し、一進一退の攻防が続く。その後岡山は#10が速攻から得点し、広島60-61岡山とする。広島のタイムアウト後、岡山のターンオーバーがあったが攻めきれず、岡山がボールコントロールをし1点差で逃げ切った。

## 第66回国民体育大会中国ブロック大会バスケットボール競技

日時	2011年8月13日(土)		成年男子	リーグ戦																				
会場名	桃太郎アリーナ			( B )コート																				
岡山県		80	<table border="0"> <tr><td>{</td><td>26</td><td>—</td><td>14</td><td>}</td></tr> <tr><td></td><td>20</td><td>—</td><td>8</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>21</td><td>—</td><td>11</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>13</td><td>—</td><td>18</td><td></td></tr> </table>	{	26	—	14	}		20	—	8			21	—	11			13	—	18		51 島根県
{	26	—	14	}																				
	20	—	8																					
	21	—	11																					
	13	—	18																					
審判名	主 審	竹内 智己		副 審	皆川 義紀																			

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
佐藤 朋信	4	12	2	2	2	1	三好 英世	4	7		2	3	2
渡邊 大樹	5	4		2		4	上山 博之	5	2		1		1
芳上 卓	6	3	1			1	柴田 崇	6	8	2		2	
辻本 雅敏	7	3		1	1	1	林 信悟	7	2			2	1
伊藤 実希	8	2		1		1	谷口 哲	8	0				1
橋口 和史	9	4		2			今岡 大輔	9	11		5	1	4
納谷 幸二	10	12	2	3		1	山根 拓郎	10	11		4	3	
三村 健夫	11	7		3	1	1	鹿野 孝博	11	1			1	3
木村 晋輔	12	11		3	5	2	岩佐 嘉人	12	5	1	1		1
山口 時生	13	0				1	陶山 和秀	13	2		1		1
竹原 康広	14	9		3	3	4	植野 裕之	14	2			2	3
山野 俊介	15	13		6	1	2	雑賀 勇太	15	0				1
合 計		80	15	52	13	19	合 計		51	9	28	14	18

## 戦 評

両チームマンツーマンで始まる。島根は岡山のDEFに苦しみ残分6:20にやっと島根#9の得点。岡山は#4の速攻、#10、#15の得点とたたみかける。この時点で岡山8-2島根。島根は#9のリバウンドショットや#5のショットなどで岡山11-9島根と追い上げる。しかし、追撃はここまでで、メンバーチェンジでリズムを変えた岡山が5連続得点。島根は#6の3Pを決めるも岡山26-14島根と岡山が点差を広げた。

2Q、岡山は速攻、スクリーンプレーなど多彩な攻めでリードをひろげる。島根はシュートを打つがリングにことごとく嫌われ残分2:32までで4点しか取れずタイムアウト。島根はポストのスクリーンを使いアウトサイドシュートで#9、#10が4点加点。岡山46-22島根と点差を広げた2Qであった。

3Q、岡山#15、#10の走りで着実に点差を広げる。島根はフリースローや#12の3Pで得点するも点差は縮まらず、岡山67-33島根となる。岡山優勢の流れは変わらず。

4Q、岡山は立ち上がりシュートがリングに嫌われ残分6:05の岡山#6の3Pまで得点なし。島根は#10のフリースロー、#14や#10のゴール下と巻き返しを図り4Qのみの得点は岡山13-18島根とリードするも、勝利には遠かった。

タイトなDEFとルーズボールを支配した、岡山が終始リードした試合だった。